

## 小笠原諸島 父島、母島 旅の記録 その1

その4まであります

2018年12月10日(月曜日)～12月15日(土曜日)

参加者:CL藤原稔、藤原義、谷村、山田、矢野

### 12/10～11 長～い船旅。東京から父島、母島へ 晴れ

ご存知のように小笠原諸島は、大陸と一度も陸続きにならなかったことがないため、独自の進化を遂げた様々な固有種が豊富に息づいていることから、白神山地、屋久島、知床に次いで2011年に世界自然遺産に登録された。

私たちの目的はメインの父島と母島の大自然と歴史に触れることだが、その憧れの島は東京都といえども南へ1000km、24時間の船旅と、とてつもなく遠い。『おがさわら丸』が6日に一便の就航なので乗り遅れないようにと、前日の夜行バスで東京入り、10日11時に竹芝桟橋から出航。はじめおおきな船の揺れは穏やかだったものの、浦賀水道を過ぎるとやはり大きくなり、気分が悪くなった。見渡す限りの大海原、地球が丸いことを実感。時折トビウオが銀色の背を光らせてみごとに飛んで行く。



おがさわら丸



乗船



部屋は貸し切り状態 2等和室



翌11日11時に父島・二見港に着いて間もなく乗り換え、14時によく母島・沖港へ上陸。『ははじま丸』の船上から山田さんがクジラのブロー(潮吹き)と尾びれを見たというが、他のメンバーはいくら目を凝らしてもその幸運に恵まれなかった。

迎えの車(小笠原の車はみな品川ナンバー)に乗って、宿でチェックインを済ませる。夕食までの時間は、『静沢の森遊歩道』を散策し、亜熱帯特有の樹木や太平洋戦争中の基地跡、弾薬庫跡、砲台を目の当たりにした。明日からのトレッキングに胸躍らせながら、宿の食事と布団で長旅の疲れをとった。(矢野 記)

ははじま丸がすでに停泊している



ははじま丸 出航 12:00



母島が見えてきた



海鳥のお出迎え



母島  
14:00 着



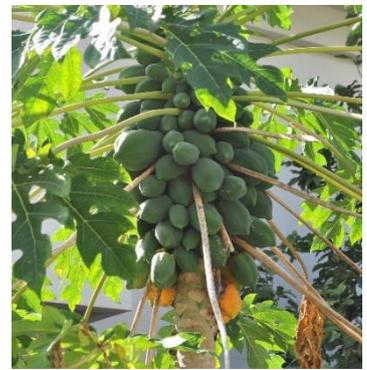
港近くの宿舎ドルフィンにチェックイン



夕食まで時間があるので 静沢の森遊歩道散策



道沿いにはバナナやパパイヤが実っている



タコノキ（小笠原固有種）



実



タコの足のように気根を広げることから  
この名がついた

森のなかには戦跡が残る



展望台



その2へ続く